

調査の概要

- 1 この報告書は、住民基本台帳等人口調査要綱及び報告要領に基づき、平成7年1月1日現在で調査したものである。
- 2 調査内容は、住民基本台帳法により、住民票に記載されている公帳簿上の世帯数及び人口（男・女）を、区市町村ごとに町丁（字）別、年齢各歳別に把握したものである。
- 3 住民基本台帳法の適用を除外されている者（日本の国籍を有しない者及び戸籍法の適用を受けない者）は、調査の対象としていない。
- 4 町丁（字）制を施行していない地域等については、通常用いている区画（自治会、町会名称等）によることとしたが、利島村、神津島村、御蔵島村及び青ヶ島村については、村を1つの区画とした。

凡 例

- 1 統計表及び図表の数値は、特にことわり書きのない限り、各年1月1日現在の数値を示す。
- 2 市部、町村部の区域は、過去に遡って現在の区域に組み替えて表章した。
- 3 統計表において「－」印は皆無又は該当数のないことを示し、「△」印はマイナス（減）を示す。
- 4 統計表において割合を示す数値は、少数点以下2位又は3位を四捨五入したものである。したがって、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。

この報告書についての照会は

総務局統計部人口統計課人口動態統計係

電話 5321-1111(代)

内線25-512

5388-2531(ダイヤルイン)

結果の概説

1 1月1日現在人口

平成7年1月1日現在における東京都の住民基本台帳人口は、11,598,634人で、前年に比べ28,943人(0.25%)の減少となっている。

調査開始(昭和32年)以来の推移をみると、55年、56年に減少したほかは毎年増加していたが、63年に再び減少に転じ、以降減少を続けている。

人口総数を男女別にみると、男5,803,315人、女5,795,319人であり、前年に比べ、男は20,810人(0.36%)、女は8,133人(0.14%)とそれぞれ減少した。性比(女100人に対する男の数)は100.1で、前年に比べ0.3ポイント低下している。

地域別にみると、区部人口は7,871,159人で、前年に比べ42,140人(0.53%)の減少となっている。一方、市部人口は3,611,914人で、前年に比べ13,107人(0.36%)、町村部人口は115,561人で90人(0.08%)といずれも増加している。

(表1、表2、図1、統計表第1表参照)

図1 人口総数及び人口増減率の推移
(昭和32年～平成7年)

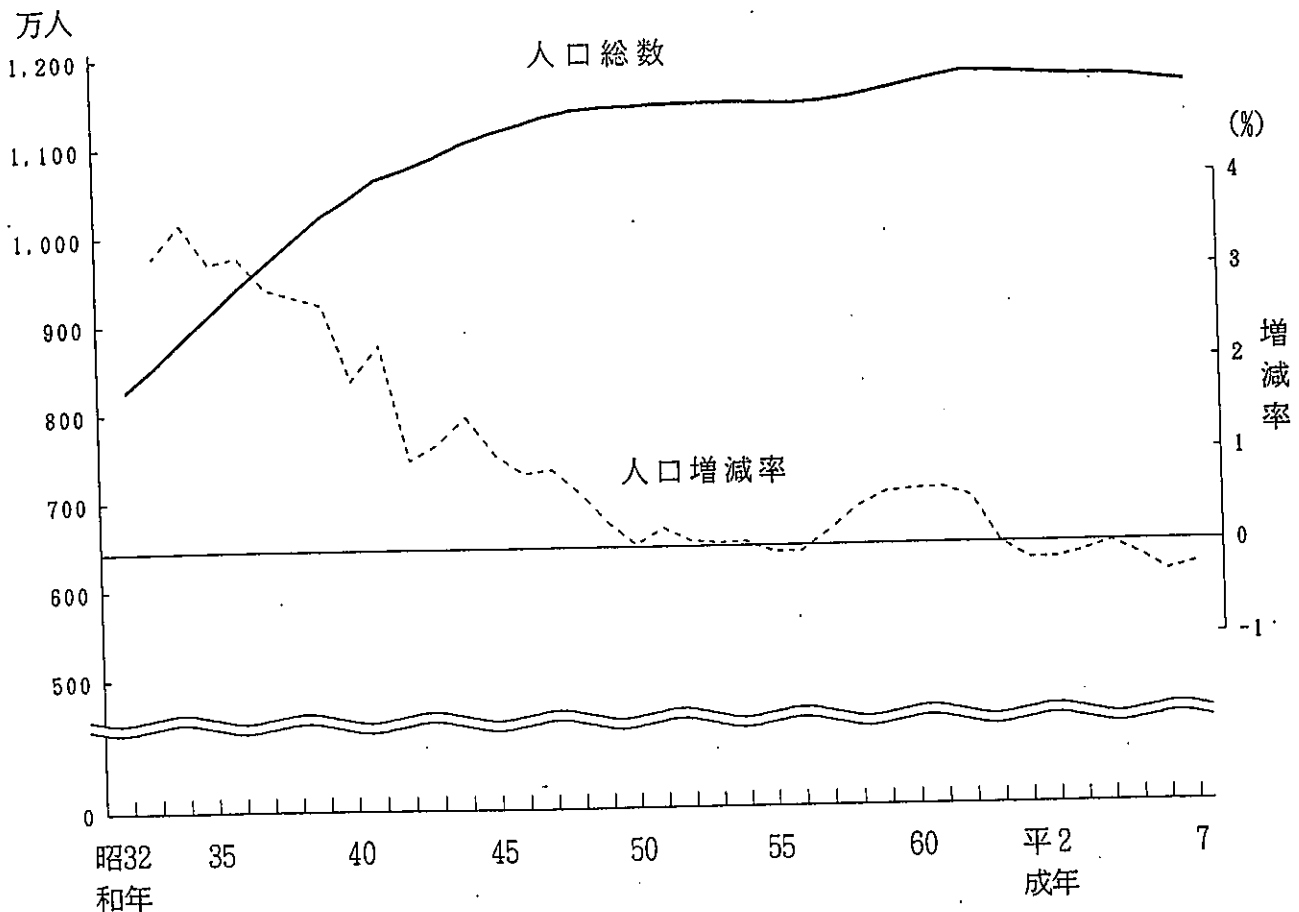


表1 人口総数及び男女別人口の推移（昭和60年～平成7年）

(単位 人、%)

年次	総数			男			女			性比 (女100人につき男)
	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率	
昭和60年	11 612 356	68 550	0.59	5 837 114	35 025	0.60	5 775 242	33 525	0.58	101.1
61	11 682 315	69 959	0.60	5 873 396	36 282	0.62	5 808 919	33 677	0.58	101.1
62	11 740 896	58 581	0.50	5 905 397	32 001	0.54	5 835 499	26 580	0.46	101.2
63	11 740 361	△535	△0.00	5 908 098	2 701	0.05	5 832 263	△3 236	△0.06	101.3
64	11 718 720	△21 641	△0.18	5 897 900	△10 198	△0.17	5 820 820	△11 443	△0.20	101.3
平成2年	11 698 060	△20 660	△0.18	5 883 398	△14 502	△0.25	5 814 662	△6 158	△0.11	101.2
3	11 684 927	△13 133	△0.11	5 872 424	△10 974	△0.19	5 812 503	△2 159	△0.04	101.0
4	11 683 316	△1 611	△0.01	5 865 617	△6 807	△0.12	5 817 699	5 196	0.09	100.8
5	11 666 227	△17 089	△0.15	5 850 386	△15 231	△0.26	5 815 841	△1 858	△0.03	100.6
6	11 627 577	△38 650	△0.33	5 824 125	△26 261	△0.45	5 803 452	△12 389	△0.21	100.4
7	11 598 634	△28 943	△0.25	5 803 315	△20 810	△0.36	5 795 319	△8 133	△0.14	100.1

表2 地域別人口の推移（昭和60年～平成7年）

(単位 人、%)

年次	区 部			市 部			町 村 部		
	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率
昭和60年	8 228 199	21 615	0.26	3 278 593	46 216	1.43	110 564	719	0.65
61	8 243 292	20 093	0.24	3 327 825	49 232	1.50	111 198	634	0.57
62	8 251 910	8 618	0.10	3 377 184	49 359	1.48	111 802	604	0.54
63	8 205 865	△46 045	△0.56	3 421 728	44 544	1.32	112 768	966	0.86
64	8 150 115	△55 750	△0.68	3 455 180	33 452	0.98	113 425	657	0.58
平成2年	8 091 701	△58 414	△0.72	3 492 121	36 941	1.07	114 238	813	0.72
3	8 045 577	△46 124	△0.57	3 524 560	32 439	0.93	114 790	552	0.48
4	8 012 523	△33 054	△0.41	3 555 785	31 225	0.89	115 008	218	0.19
5	7 969 439	△43 084	△0.54	3 581 630	25 845	0.73	115 158	150	0.13
6	7 913 299	△56 140	△0.70	3 598 807	17 177	0.48	115 471	313	0.27
7	7 871 159	△42 140	△0.53	3 611 914	13 107	0.36	115 561	90	0.08

2 年齢別人口

(1) 5歳階級別人口

人口総数を5歳階級別()数字は構成比を示す。)にみると、20~24歳が1,142,248人(9.85%)で最も多く、次いで、25~29歳の1,061,706人(9.15%)、45~49歳の948,393人(8.18%)の順となっている。

5歳階級別人口を地域別にみると、区部は、20~24歳が759,948人(9.65%)で最も多く、次いで、25~29歳の729,693人(9.27%)、45~49歳の645,334人(8.20%)の順となっている。市部は、20~24歳が373,972人(10.35%)で最も多く、次いで、25~29歳の325,198人(9.00%)、45~49歳の293,016人(8.11%)で区部と同様の順となっている。

一方、町村部は、45~49歳の10,043人(8.69%)、40~44歳の9,012人(7.80%)、50~54歳の8,862人(7.67%)の順となっている。(表3参照)

表3 地域別、年齢(5歳階級)別人口

(単位 人、%)

年 齢	総 数	区 部	市 部	町 村 部	構 成 比			
					総 数	区 部	市 部	町村部
総 数	11 598 634	7 871 159	3 611 914	115 561	100.00	100.00	100.00	100.00
0~4歳	472 400	302 484	164 998	4 918	4.07	3.84	4.57	4.26
5~9	495 725	316 628	172 954	6 143	4.27	4.02	4.79	5.32
10~14	553 370	352 331	193 649	7 390	4.77	4.48	5.36	6.39
15~19	705 802	450 449	247 153	8 200	6.09	5.72	6.84	7.10
20~24	1 142 248	759 948	373 972	8 328	9.85	9.65	10.35	7.21
25~29	1 061 706	729 693	325 198	6 815	9.15	9.27	9.00	5.90
30~34	865 190	594 460	264 556	6 174	7.46	7.55	7.32	5.34
35~39	727 613	497 261	223 540	6 812	6.27	6.32	6.19	5.89
40~44	812 160	548 947	254 201	9 012	7.00	6.97	7.04	7.80
45~49	948 393	645 334	293 016	10 043	8.18	8.20	8.11	8.69
50~54	886 206	601 692	275 652	8 862	7.64	7.64	7.63	7.67
55~59	768 361	529 333	231 957	7 071	6.62	6.72	6.42	6.12
60~64	672 880	470 196	195 936	6 748	5.80	5.97	5.42	5.84
65~69	533 565	379 326	148 088	6 151	4.60	4.82	4.10	5.32
70~74	378 884	274 575	99 525	4 784	3.27	3.49	2.76	4.14
75~79	263 614	192 023	68 026	3 565	2.27	2.44	1.88	3.08
80~84	184 553	134 733	47 280	2 540	1.59	1.71	1.31	2.20
85~89	89 747	65 411	22 945	1 391	0.77	0.83	0.64	1.20
90歳以上	36 197	26 327	9 256	614	0.31	0.33	0.26	0.53
不詳者	20	8	12	0	0.00	0.00	0.00	0.00

(2) 10歳階級別構成比

人口総数を10歳階級別の構成比で見ると、20歳代が19.00%で最も多く、次いで、40歳代(15.18%)、50歳代(14.27%)の順となっている。

次に、10年前の構成比と比べると、0～9歳、10歳代、30歳代及び40歳代では低下しており、20歳代及び50歳代以上の階級では上昇している。(表4、図2 参照)

(3) 10歳階級別性比

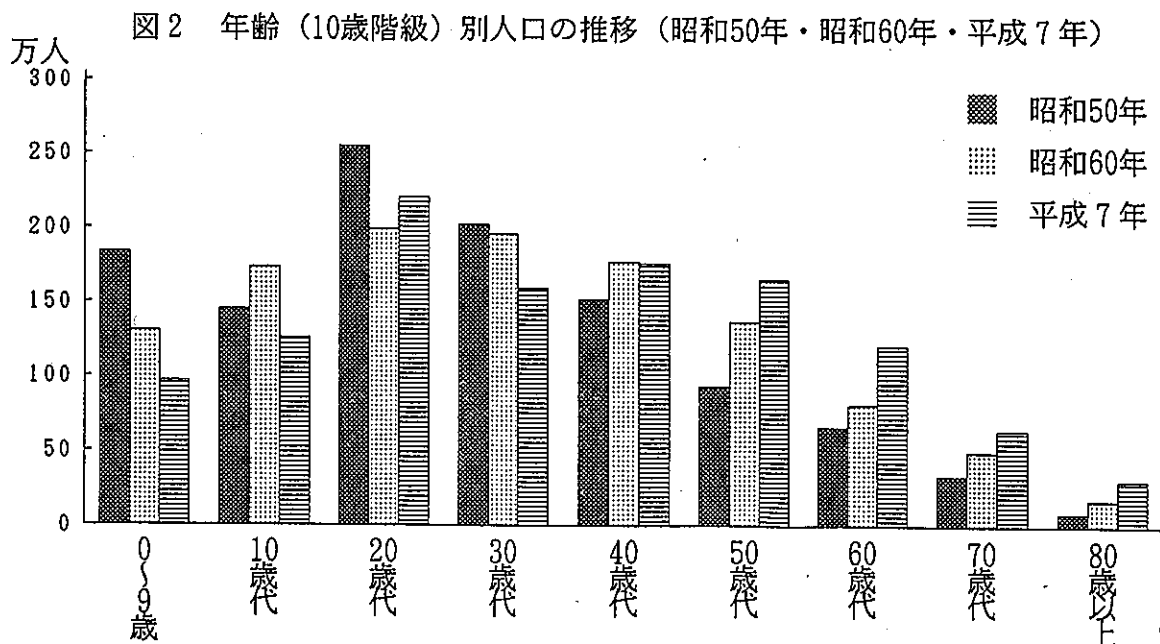
性比を10歳階級別にみると、20歳代が113.4で最も高く、次いで、30歳代(112.9) 10歳代(105.1)の順となっている。

性比は50歳代で逆転し、年代が進むにつれて低くなっている。(表4、図2 参照)

表4 男女別人口の年齢(10歳階級)別構成比及び性比の推移(50年・60年・7年)

年 齢	昭 和 5 0 年			昭 和 6 0 年			平 成 7 年			性比(女100人につき男)		
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	50年	60年	7年
総 数	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	101.9	101.1	100.1
0～9歳	16.12	16.40	15.84	11.25	11.45	11.04	8.35	8.54	8.15	105.5	104.8	104.9
10歳代	12.73	13.01	12.44	14.92	15.33	14.50	10.86	11.12	10.59	106.6	106.8	105.1
20歳代	22.36	24.00	20.68	17.15	18.57	15.71	19.00	20.18	17.82	118.3	119.4	113.4
30歳代	17.75	17.89	17.62	16.86	17.59	16.12	13.73	14.55	12.91	103.5	110.3	112.9
40歳代	13.31	12.91	13.73	15.24	14.94	15.55	15.18	15.53	14.83	95.8	97.1	104.9
50歳代	8.21	7.27	9.17	11.82	11.36	12.28	14.27	13.98	14.55	80.8	93.5	96.3
60歳代	5.82	5.35	6.29	6.98	6.00	7.97	10.40	9.77	11.03	86.7	76.0	88.7
70歳代	2.95	2.62	3.30	4.27	3.64	4.92	5.54	4.44	6.64	81.0	74.8	66.9
80歳代	0.69	0.52	0.87	1.39	1.05	1.74	2.36	1.70	3.03	60.5	61.3	56.2
90歳以上	0.04	0.02	0.06	0.11	0.07	0.16	0.31	0.18	0.45	38.6	44.2	39.4

(注) 総数には年齢不詳者を含む。



3 年齢3区分別人口

(1) 年齢3区分別人口の推移

人口総数を年齢3区分別にみると、年少人口(0～14歳)は1,521,495人で、前年に比べ35,755人(2.30%)の減となっており、51年以降減少が続いている。人口総数に占める割合は13.12%であり、10年前の60年(18.56%)に比べ5.44ポイント低下している。

生産年齢人口(15～64歳)は8,590,559人で、前年に比べ50,990人(0.59%)の減となり、3年続けての減少となった。人口総数に占める割合は74.07%であり、10年前(72.62%)に比べ1.45ポイント上昇している。

老年人口(65歳以上)は1,486,560人で、前年に比べ57,804人(4.05%)の増となっており、調査開始以来一貫して増加している。人口総数に占める割合は12.82%で、10年前(8.82%)に比べ、4.00ポイント上昇している。また、老年人口に占める75歳以上の割合も10年前の36.64%から1.98ポイント上昇し、38.62%となっている。

(表5-1、表5-2、表6、図3参照)

表5-1 年齢(3区分)別人口の推移(昭和60年～平成7年)

(単位 人、%)

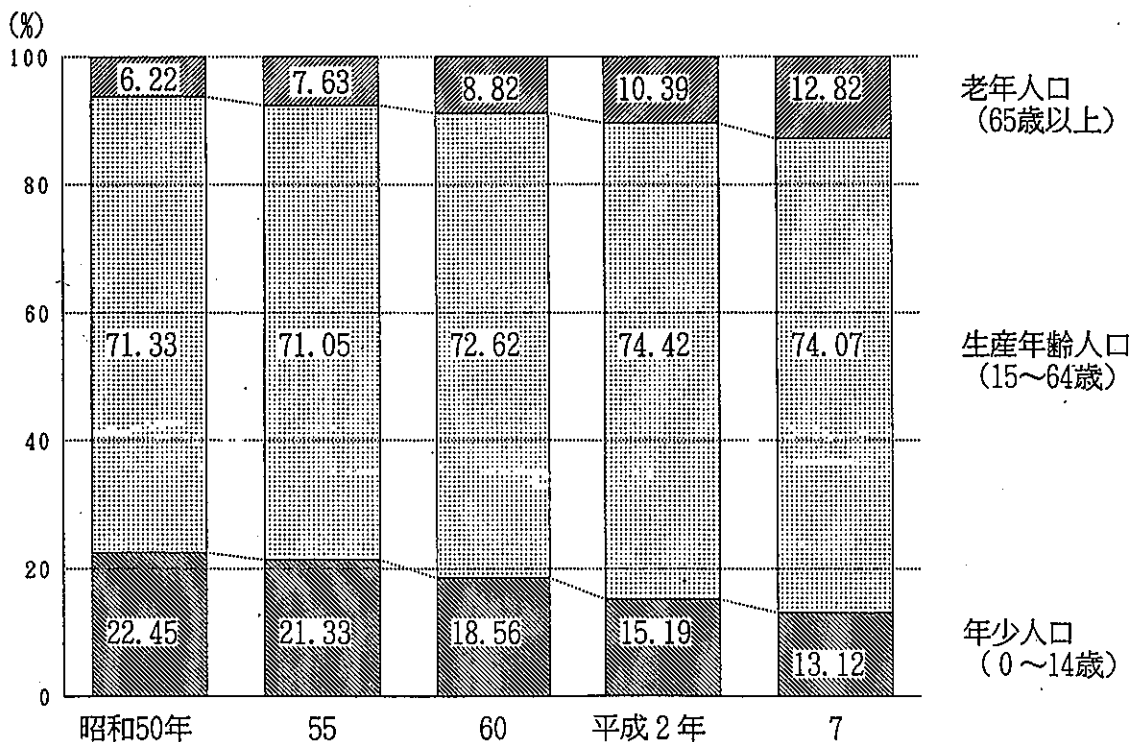
年次	年少人口(0～14歳)			生産年齢人口(15～64歳)			老年人口(65歳以上)		
	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率
昭和60年	2 155 242	△54 328	△2.46	8 432 328	90 661	1.09	1 024 763	32 208	3.24
61	2 097 660	△57 582	△2.67	8 522 129	89 801	1.06	1 062 505	37 742	3.68
62	2 027 876	△69 784	△3.33	8 611 850	89 721	1.05	1 101 144	38 639	3.64
63	1 945 822	△82 054	△4.05	8 658 037	46 187	0.54	1 136 479	35 335	3.21
64	1 858 201	△87 621	△4.50	8 687 938	29 901	0.35	1 172 552	36 073	3.17
平成2年	1 777 415	△80 786	△4.35	8 705 260	17 322	0.20	1 215 356	42 804	3.65
3	1 712 004	△65 411	△3.68	8 706 731	1 471	0.02	1 266 165	50 809	4.18
4	1 656 726	△55 278	△3.22	8 708 151	1 420	0.02	1 318 412	52 247	4.13
5	1 605 905	△50 821	△3.07	8 688 396	△19 755	△0.23	1 371 902	53 490	4.06
6	1 557 250	△48 655	△3.03	8 641 549	△46 847	△0.54	1 428 756	56 854	4.14
7	1 521 495	△35 755	△2.30	8 590 559	△50 990	△0.59	1 486 560	57 804	4.05

表5-2 年齢(2区分)別老年人口の推移(昭和60年~平成7年)

(単位 人、%)

年次	老年人口(65歳以上)		65~74歳		75歳以上	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
昭和60年	1 024 763	100.00	649 257	63.36	375 506	36.64
61	1 062 505	100.00	666 168	62.70	396 337	37.30
62	1 101 144	100.00	682 579	61.99	418 565	38.01
63	1 136 479	100.00	697 998	61.42	438 481	38.58
64	1 172 552	100.00	713 631	60.86	458 921	39.14
平成2年	1 215 356	100.00	733 960	60.39	481 396	39.61
3	1 266 165	100.00	764 710	60.40	501 455	39.60
4	1 318 412	100.00	798 462	60.56	519 950	39.44
5	1 371 902	100.00	832 918	60.71	538 984	39.29
6	1 428 756	100.00	874 569	61.21	554 187	38.79
7	1 486 560	100.00	912 449	61.38	574 111	38.62

図3 年齢(3区分)別人口(構成比)の推移(昭和50年~平成7年)



(2) 地域別比較

年齢3区分別人口の構成比を地域別にみると、年少人口の割合は、町村部(15.97%)が最も高く次いで、市部(14.72%)、区部(12.34%)の順となっている。

生産年齢人口の割合は、市部(74.34%)が最も高く、次いで、区部(74.03%)、町村部(67.55%)の順となっている。

老年人口の割合は、町村部(16.48%)が最も高く、次いで、区部(13.62%)、市部(10.94%)の順となっており、特に、島部の町村(21.41%)が際立って高い。(表6参照)

表6 地域別、年齢(3区分)別人口

(単位 人、%)

地 域	総 数		年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		老年人口(65歳以上)	
	人 口	構成比	人 口	構成比	人 口	構成比	人 口	構成比
総 数	11 598 634	100.00	1 521 495	13.12	8 590 559	74.07	1 486 560	12.82
区 部	7 871 159	100.00	971 443	12.34	5 827 313	74.03	1 072 395	13.62
市 部	3 611 914	100.00	531 601	14.72	2 685 181	74.34	395 120	10.94
町村部	115 561	100.00	18 451	15.97	78 065	67.55	19 045	16.48
郡部	83 347	100.00	13 203	15.84	57 997	69.58	12 147	14.57
島部	32 214	100.00	5 248	16.29	20 068	62.30	6 898	21.41

(注) 総数には年齢不詳者を含む。

(3) 区市町村別比較

年齢3区分別人口の構成比を区市町村別(島部を除く。)にみると、年少人口の割合は、瑞穂町(17.63%)が最も高く、都全体(13.12%)に比べ4.51ポイント高くなっている。次いで、羽村市(17.49%)、青梅市(17.09%)の順となっており、最も低いのは渋谷区(9.70%)で、以下、豊島区(10.08%)、新宿区(10.27%)の順となっている。

生産年齢人口の割合は、多摩市(76.14%)が最も高く、都全体(74.07%)に比べ2.07ポイント高くなっている。次いで、狛江市(76.11%)、調布市(75.65%)の順となっており最も低いのは檜原村(59.22%)で、以下、奥多摩町(63.23%)、五日市町(67.34%)の順となっている。

老年人口の割合は、檜原村(28.85%)が最も高く、都全体(12.82%)に比べ16.03ポイント高くなっている。次いで、奥多摩町(24.92%)、台東区(18.39%)の順となっている。最も低いのは多摩市(7.35%)で、以下、稲城市(7.97%)、羽村市(8.02%)の順となっている。

年齢3区分別人口の構成比を島部の町村別にみると、年少人口の割合は、全ての町村において都全体(13.12%)を上回っている。生産年齢人口の割合は、全ての町村において都全体(74.07%)を下回っている。老年人口の割合は、小笠原村(9.42%)を除いた全ての町村において都全体(12.82%)を上回っている。(表7参照)

表7 区市町村別平均年齢及び年齢（3区分）別人口の割合

地 域	平均年齢 (歳)	年齢(3区分) 別人口の割合(%)			地 域	平均年齢 (歳)	年齢(3区分) 別人口の割合(%)		
		0~14歳	15~64歳	65歳以上			0~14歳	15~64歳	65歳以上
総 数	39.39	13.12	74.07	12.82	田 無 市	38.40	14.78	73.54	11.68
区 部	40.07	12.34	74.03	13.62	保 谷 市	39.14	13.88	73.15	12.97
千代田区	41.85	12.67	69.42	17.91	福 生 市	36.65	17.01	73.29	9.70
中央区	41.39	13.28	70.52	16.20	狛 江 市	38.94	12.09	76.11	11.80
港区	42.04	11.11	72.88	16.01	東 大 和 市	37.57	16.10	74.20	9.70
新宿区	41.62	10.27	74.05	15.69	清 瀬 市	38.99	14.75	73.58	11.66
文京区	41.54	11.48	71.87	16.65	東久留米市	37.79	15.46	74.74	9.80
台東区	43.71	10.51	71.10	18.39	武蔵村山市	36.88	16.69	74.35	8.96
墨田区	41.46	12.22	72.51	15.27	多 摩 市	35.69	16.51	76.14	7.35
江東区	39.85	13.21	74.77	12.02	稲 城 市	36.10	16.45	75.58	7.97
品川区	40.87	11.80	73.71	14.49	秋 川 市	37.63	16.48	72.97	10.55
目黒区	40.81	10.70	74.37	14.94	羽 村 市	35.64	17.49	74.49	8.02
大田区	40.17	12.38	73.85	13.77	町 村 部	40.69	15.97	67.55	16.48
世田谷区	39.51	11.51	74.99	13.50	郡 部	39.58	15.84	69.58	14.57
渋谷区	41.48	9.70	74.93	15.37	瑞 穂 町	36.49	17.63	72.92	9.46
中野区	40.50	10.64	74.64	14.72	日の出町	39.23	15.27	71.59	13.13
杉並区	39.96	11.01	74.70	14.29	五日市町	40.65	15.81	67.34	16.85
豊島区	41.66	10.08	74.07	15.85	檜 原 村	47.61	11.94	59.22	28.85
北区	41.80	11.56	72.57	15.86	奥多摩町	45.86	11.85	63.23	24.92
荒川区	42.23	12.03	71.41	16.56	島 部	43.55	16.29	62.30	21.41
板橋区	39.21	13.11	74.49	12.40	大 島 支 庁	43.93	15.66	62.02	22.32
練馬区	38.60	14.01	74.10	11.89	大 島 町	44.11	14.72	62.88	22.39
足立区	39.08	13.97	74.57	11.46	利 島 村	43.98	15.84	62.05	22.11
葛飾区	39.72	13.73	73.34	12.93	新 島 村	46.68	14.11	59.78	26.11
江戸川区	37.49	14.83	75.49	9.68	神 津 島 村	39.36	21.64	61.53	16.83
市 部	37.85	14.72	74.34	10.94	三 宅 支 庁	44.77	16.03	60.58	23.39
八王子市	37.51	15.12	74.21	10.67	三 宅 村	45.12	15.64	60.75	23.61
立川市	38.13	14.35	74.41	11.24	御 蔵 島 村	39.06	22.31	57.77	19.92
武蔵野市	39.36	12.46	73.66	13.88	八 丈 支 庁	44.22	16.91	61.20	21.89
三鷹市	38.82	12.69	74.64	12.68	八 丈 町	44.35	16.83	61.15	22.02
青梅市	37.37	17.09	71.60	11.31	青ヶ島村	37.98	20.69	63.55	15.76
府中市	37.62	14.46	74.52	11.02	小 笠 原 支 庁	35.90	18.58	72.01	9.42
昭島市	37.74	16.30	72.60	11.10	小 笠 原 村	35.90	18.58	72.01	9.42
調布市	38.21	13.08	75.65	11.27					
町田市	38.03	14.63	74.98	10.39					
小金井市	38.18	13.76	73.88	12.36					
小平市	37.76	14.65	74.16	11.18					
日野市	37.54	14.10	75.53	10.37					
東村山市	38.98	14.70	72.80	12.50					
国分寺市	38.02	13.40	75.08	11.52					
国立市	38.11	13.90	74.41	11.69					

4 平均年齢

平均年齢は、39.4歳と前年に比べ 0.4歳高くなっている。これを男女別にみると、男38.1歳、女40.7歳と女のほうが 2.6歳高くなっている。

地域別にみると町村部の40.7歳が最も高く、次いで、区部（40.1歳）、市部（37.9歳）の順となっており、いずれの地域でも上昇が続いている。

区市町村別にみると、檜原村の 47.61歳が最も高く、次いで、新島村(46.68歳)、奥多摩町(45.86歳)の順となっている。最も低いのは羽村市(35.64歳)で、以下、多摩市(35.69歳)、小笠原村(35.90歳)の順となっている。

区部のみでは台東区(43.71歳)が最も高く、次いで、荒川区(42.23歳)、港区(42.04歳)の順となっており、最も低いのは江戸川区(37.49歳)で、以下、練馬区(38.60歳)、足立区(39.08歳)の順となっている。
(表7、表8参照)

表8 地域別、男女別平均年齢の推移（昭和50年～平成7年）

(単位 歳)

地 域		50年	55年	60年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
総 数	総 数	31.5	33.3	35.2	37.2	37.7	38.1	38.5	39.0	39.4
	区 部	32.0	34.0	35.9	37.9	38.3	38.8	39.2	39.7	40.1
	市 部	29.7	31.5	33.6	35.6	36.1	36.5	36.9	37.4	37.9
	町村部	33.5	35.0	36.6	38.6	39.0	39.4	39.8	40.3	40.7
	郡部	32.2	33.7	35.4	37.4	37.8	38.2	38.6	39.1	39.6
	島部	35.8	37.7	39.5	41.4	42.0	42.4	42.7	43.2	43.6
男	総 数	30.6	32.3	34.1	36.0	36.4	36.8	37.2	37.7	38.1
	区 部	31.0	32.9	34.6	36.6	37.0	37.4	37.9	38.3	38.7
	市 部	29.0	30.7	32.7	34.6	35.0	35.4	35.8	36.3	36.7
	町村部	32.5	34.1	35.5	37.3	37.7	38.1	38.4	38.9	39.3
	郡部	31.5	33.0	34.4	36.3	36.6	37.0	37.4	37.8	38.3
	島部	34.4	36.4	38.0	39.8	40.3	40.8	41.1	41.6	42.0
女	総 数	32.4	34.3	36.4	38.5	38.9	39.4	39.8	40.3	40.7
	区 部	33.0	35.1	37.2	39.3	39.7	40.1	40.5	41.0	41.4
	市 部	30.4	32.2	34.5	36.7	37.2	37.7	38.1	38.6	39.0
	町村部	34.5	36.0	37.8	39.9	40.3	40.8	41.2	41.6	42.1
	郡部	33.0	34.5	36.4	38.6	39.0	39.5	39.9	40.4	40.9
	島部	37.2	39.1	41.0	43.1	43.6	44.0	44.4	44.8	45.1

5 年齢構造指数

年少人口指数は17.7で、前年より0.3ポイント低下し、老年人口指数は逆に17.3と0.8ポイント上昇している。

年少人口指数は51年以降低下し続けているのに対し、老年人口指数は調査開始以来一貫して上昇を続けている。

従属人口指数は前年より0.4ポイント上昇し、35.0となった。

老年化指数は前年より6.0ポイント高い97.7となった。10年前の60年(47.5)と比べ、50.2ポイントと急激に上昇している。

(表9、図4参照)

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口 (0~14歳)}}{\text{生産年齢人口 (15~64歳)}} \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口 (65歳以上)}}{\text{生産年齢人口 (15~64歳)}} \times 100$$

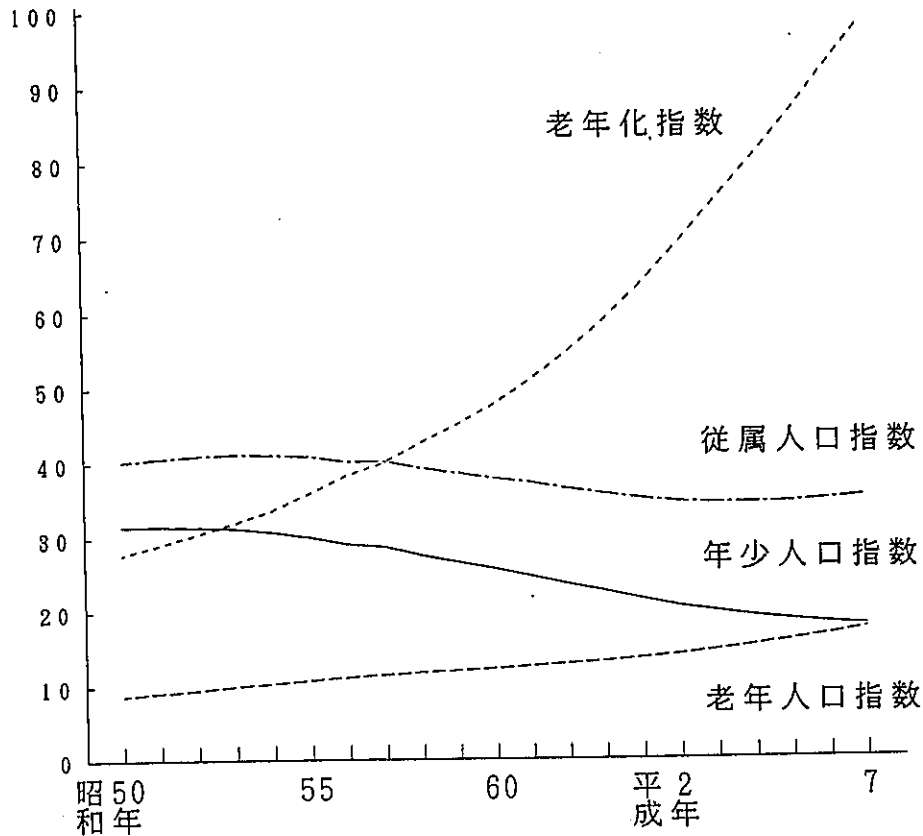
$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口 (0~14歳)} + \text{老年人口 (65歳以上)}}{\text{生産年齢人口 (15~64歳)}} \times 100$$

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口 (65歳以上)}}{\text{年少人口 (0~14歳)}} \times 100$$

表9 年齢構造指数の推移 (昭和50年~平成7年)

指 数	50年	55年	60年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
年少人口指数	31.5	30.0	25.6	20.4	19.7	19.0	18.5	18.0	17.7
老年人口指数	8.7	10.7	12.2	14.0	14.5	15.1	15.8	16.5	17.3
従属人口指数	40.2	40.8	37.7	34.4	34.2	34.2	34.3	34.6	35.0
老年化指数	27.7	35.8	47.5	68.4	74.0	79.6	85.4	91.7	97.7

図4 年齢構造指数の推移
(昭和50年～平成7年)



6 世帯数

世帯総数は 5,054,473世帯で前年に比べ30,888世帯(0.61%)の増加となった。1世帯当たりの人員は調査開始以来一貫して減少を続け、2.29人と前年に比べ0.02人少なくなっている。

これを地域別にみると、区部は 3,573,202世帯で、前年に比べ14,166世帯(0.40%)、市部は 1,439,618世帯で16,137世帯(1.13%)、町村部は41,653世帯で 585世帯(1.42%)とそれぞれ増加している。1世帯当たりの人員は、町村部の2.77人が最も多く、次いで、市部(2.51人)、区部(2.20人)の順となっている。

区市町村別にみると、世田谷区が364,208世帯で最も多く、次いで、大田区(286,477世帯)、練馬区(264,547世帯)の順となっており、最も少ないのは青ヶ島村(114世帯)で、以下、御蔵島村(127世帯)、利島村(148世帯)の順となっている。

1世帯当たりの人員は神津島村が3.25人で最も多く、次いで、日の出町(3.23人)、五日市町(3.10人)の順となっており、最も少ないのは青ヶ島村(1.78人)で、以下、小笠原村(1.85人)、渋谷区(1.92人)の順となっている。

(表10、表11、統計表第1表、第4表)

表10 地域別世帯数の推移（昭和60年～平成7年）

（単位 世帯、％）

年次	総数			区部			市部			町村部		
	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率
昭和60年	4 602 182	60 188	1.33	3 399 934	35 321	1.05	1 167 068	24 248	2.12	35 180	619	1.79
61	4 664 177	61 995	1.35	3 433 799	33 865	1.00	1 194 766	27 698	2.37	35 612	432	1.23
62	4 731 351	67 174	1.44	3 470 164	36 365	1.06	1 224 943	30 177	2.53	36 244	632	1.77
63	4 771 277	39 926	0.84	3 479 694	9 530	0.27	1 254 562	29 619	2.42	37 021	777	2.14
64	4 802 946	31 669	0.66	3 482 180	2 486	0.07	1 283 110	28 548	2.28	37 656	635	1.72
平成2年	4 842 053	39 107	0.81	3 489 665	7 485	0.21	1 313 945	30 835	2.40	38 443	787	2.09
3	4 890 903	48 850	1.01	3 508 572	18 907	0.54	1 343 194	29 249	2.23	39 137	694	1.81
4	4 947 560	56 657	1.16	3 533 490	24 918	0.71	1 374 308	31 114	2.32	39 762	625	1.60
5	4 994 278	46 718	0.94	3 551 171	17 681	0.50	1 402 722	28 414	2.07	40 385	623	1.57
6	5 023 585	29 307	0.59	3 559 036	7 865	0.22	1 423 481	20 759	1.48	41 068	683	1.69
7	5 054 473	30 888	0.61	3 573 202	14 166	0.40	1 439 618	16 137	1.13	41 653	585	1.42

表11 1世帯当たり人員の推移（昭和50年～平成7年）

（単位 人）

地域	50年	55年	60年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
総数	2.68	2.62	2.52	2.42	2.39	2.36	2.34	2.31	2.29
区部	2.59	2.52	2.42	2.32	2.29	2.27	2.24	2.22	2.20
市部	2.96	2.92	2.81	2.66	2.62	2.59	2.55	2.53	2.51
町村部	3.45	3.28	3.14	2.97	2.93	2.89	2.85	2.81	2.77

図8-1 人口の年齢構成 (平成 7年 東京都)

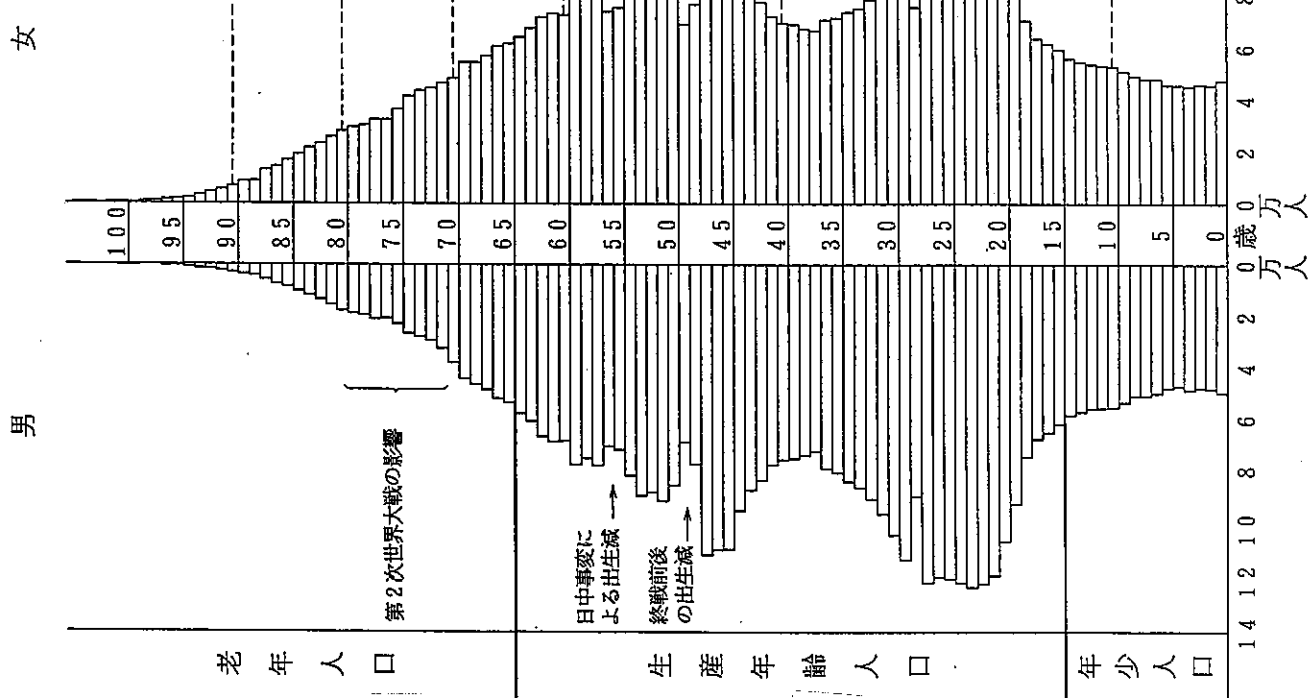


図8-2 人口の年齢構成比較 (昭和50年・平成 7年東京都)

